

つつきはっけん研究会 中間報告

神君伊賀越え 逃走路の調査研究 堺～京田辺(草内の渡し)

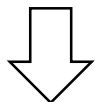
2016. 10. 4

つつきはっけん研究会(THK)

1. 逃走路の検討手順

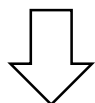
歴史資料調査

記録・・・石川忠総留書、徳川実紀、武徳編年集成、信長公記
報告・・・京都所司代、家譜図（古文書） 軍記物・・・泉堺記事
出版物・・・家康と伊賀越えの危難、伊賀越逃走記



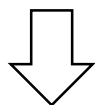
街道里道調査

1. 国土地理院1／25000地図購入
2. 今昔MAP(明治の測量地図、現在比較)
3. 昔の道に近き所を歩行、高低・距離の確認、時間測定



逃走路を記す

1. 国土地理院1／25000地図に、逃走ルート、地名記述
2. パソコン上の地図に逃走コースを記す



通過場所と時刻 一覧作成

1. 通過場所、日時のみまとめ
2. 出来事をつけ加える

2. 史料(歴史資料)調査

1. 石川忠総留書 逃走路については、**最も信憑性が高い**
石川忠総(1582-1650、伊賀越えに同行した父:大久保忠隣、親戚同行者から聞く)
堺-平野-山ノねき-ホタニ-尊念寺-草地-宇治田原-
2. 徳川実紀 江戸幕府公式記録(19世紀後半、家康の記録は、東照宮御実紀)
逃走路としては、武徳編年集成を参考にして記述
権力者の都合のよいように歪められている。6日間の逃走
飯盛山の麓、河内の尊圓寺村、山城の相楽山田村、木津川渡し
4. 信長公記 太田牛一(右筆、武将・官僚)、信長公式一代記(1589)、記述極少
然るに、徳川家康公、穴山梅雪、長谷川竹、和泉の堺にて、信長公御父子御生害の
由承り、取る物も取り敢へず、宇治田原越えにて、退かれ候ところ、一揆どもさし合ひ、
穴山梅雪生害なり。徳川公、長谷川竹、桑名より舟にめされ、熱田湊へ船着なり。
5. 新十左衛門末次京都所司代報告書(1650、山口城家臣、新家家譜)
先年権現様泉州堺ヨリ御国へ御下向成サレ候御道筋、河内地ヨリ**山城普賢寺谷ヲ**
御越工成サレ、草内村ノ渡ヲ御越成サレ候。
権現様宇治田原御通りハ天正十壬午年六月三日ノ**巳ノ刻**、山口本城ニテ御膳ヲ
召上ラレ**午ノ刻**出門遊バサレ、信楽越エニ御通り成サレ候、
□禅定寺文書(1582.6.5 山口城主が、家康一行に対する禅定寺の取計らいにお礼)
□奥田家家系図(山口城の奥田仁義が手伝う)
6. 家譜図 小山伊織家(飯岡)
津田東山中、山城の間道、興戸、黒岩、飯岡、木津川渡し口、河水暴至、
小山太郎左衛門政清、村民赴、御舟郷導、田原至、賜長九寸御懐剣賞之
梅雪従神君、子義範先引、上冠急迫、不得渡河、梅雪主従十二人皆自刃

8. 西井長和説(星田郷土史家、1982年伊賀越逃走記、土地の伝承に基づき組立てた)
 堺—柏原—船で河内湖を渡り、深野池東岸(北条)—飯盛山山麓—住吉平田神社
 —妙見宮—ひそみの藪—西庄田—狭戸(せぼど)—穂谷—興戸—飯岡—井手—和東
 —信楽 ※かいがけの道は、星田～穂谷の最短路として浮上?(あるブログ)
9. 枚方の歴史(馬部隆弘ほか、2013年、**石川忠総説推挙**)
 堺—生駒山麓—東高野街道—山根街道—津田—尊延寺—田辺街道—山城
 ～山中に入り(山岳修験宿坊・往来あり)～津田郷内穂谷・尊延寺～
10. 川崎記孝(2002、家康と伊賀越えの危難、伊賀郷土研究)
 堺—平野—飯盛—枚方—津田—穂谷—尊延寺—草内—郷之口—山口城—山田—
 甲賀山中—信楽—小川城—御斎峠・神山—丸柱—石川—河合—柘植—鹿伏兔—関
 —亀山—庄野—石薬師—白子—那古(長太)～大浜—岡崎
11. 池田裕(2005、忍者研究家)
 堺—阿倍—平野—山のねき—柏原—飯盛山麓—星田妙見—津田—穂谷—尊延寺—
 氷室—天王—普賢寺—水取—多田羅—興戸—草内—長尾村八幡山—石原村—
 郷之口—山田村—裏白峠—信楽—小川城—桜峠—神山—丸柱—音羽—河合—
 御代—柘植—加太—白子～大浜—岡崎

■信憑性が高いこと、時刻に関すること

1. 家康が本能寺の変を知ったのは、飯盛山西麓

本多忠勝と茶屋四郎次郎が伝える

[石川忠総留書、茶屋由緒書]

2. 宇治田原・山口城に到着したのは、6/3 10時、 出発したのは、12時

3. 本能寺の変の知らせ 安土:6/2午前十時(巳の刻) [信長公記] (56km)

奈良: 十時(四つ) [多聞院日記] (40km)

安土: 十二時 [イエズス会]

3. 逃走路の概略検討

1. 堺(妙国寺)―住吉大社―長居・鷹合―針中野―平野・加美―久宝寺―八尾・高安

2. 久宝寺―八尾・高安 ~ ~ ふこうの池―深野・北条―住吉平田神社
山のネキ、恩智川を舟で北上 (深化緑地) (野崎) (四條躰)

- ・17世紀、河内の綿栽培や木綿生産が盛ん。元禄2年(1689)、貝原益軒『南遊紀行』によれば「河内は綿を多く栽培し、とくに東の山のふもとあたりが多く、その綿から織った山根木綿は京都で評判となっている」
- ・18世紀、1704年(宝永元年)に大和川が付け替えられると、それまでの川床は畑として生まれかわり、綿作りがますます盛んになり、木綿織りはさらに発展。宝暦5年(1755)には、八尾の木綿商人の仲間と、高安山麓の木綿商人仲間が、商売を取り決める(宝暦5年正月「山の根き組定書」西岡文書、八尾市史史料編)。

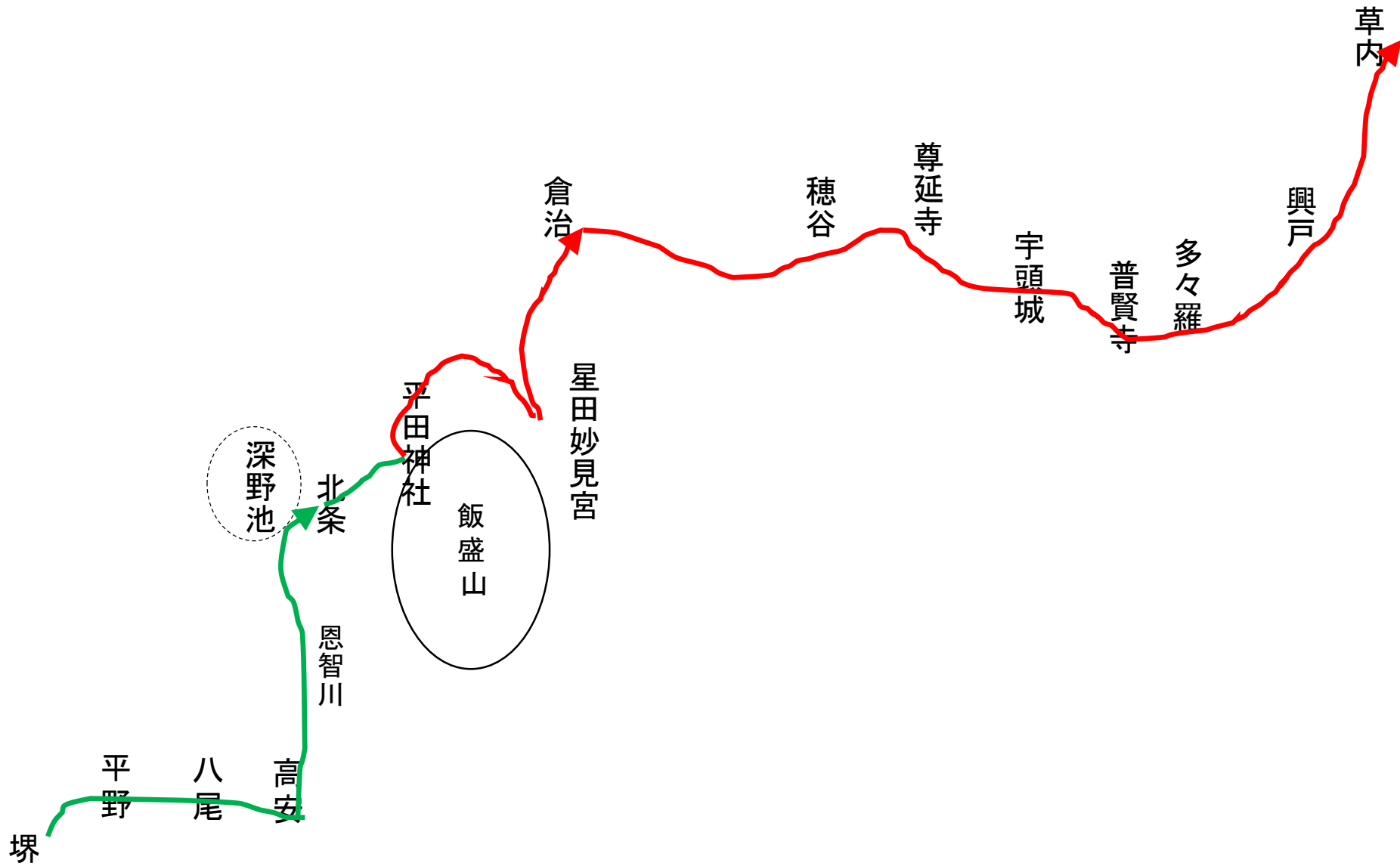
3. 住吉平田神社―東高野街道北上―東寝屋川・打上付近右―山根の道―
妙見の道・梶ヶ坂―星田妙見宮

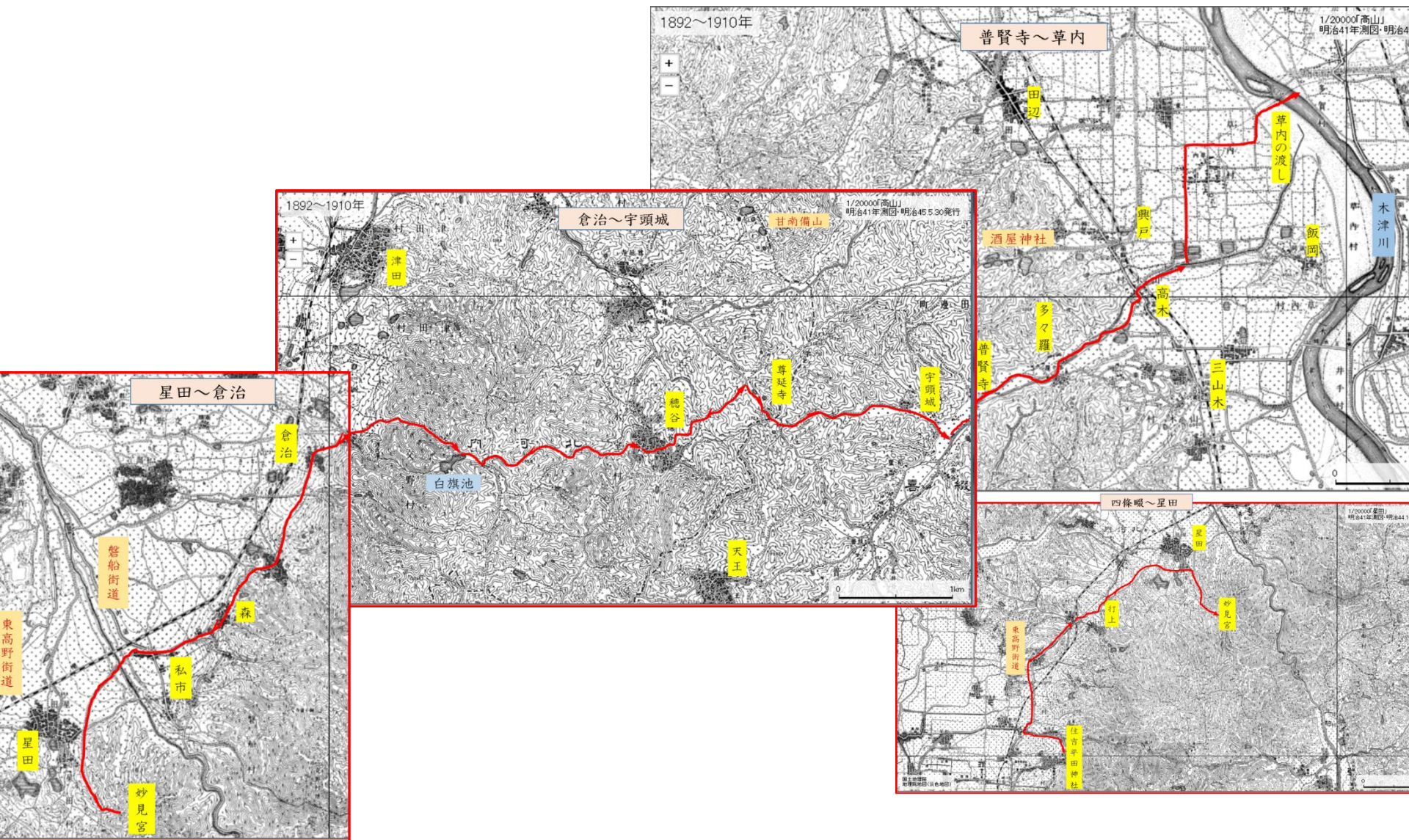
- ・住吉平田神社(三牧宮司)と星田妙見宮(和久田宮司)は、知り合いで道案内人をだす

4. 星田妙見宮―私市・森・神宮寺―倉治―穂谷―尊延寺―宇頭城―普賢寺谷・多々羅―
興戸・草内

- ・津田郷には、織田の恩恵を受けた土豪がいる。彼らが道案内人で、山道を通る。津田経由は大回り。
- ・倉治～穂谷の逃走路にふさわしい道を7/14に確認した
- ・星田から穂谷の最短距離として、かいがけの道があるがそうではない。かいがけの道(傍示経由)は、険しい
- ・槍越えの道について、現在では、不可能である。明治の測量図では、興戸まで続いている。
戦国時代は、どうであったのか確認が必要
- ・穂谷で普賢寺新八に出会ったなら、穂谷～尊延寺～宇頭城を通過する
- ・尊延寺地域の大きさに注目、道路の左右、普賢寺地区の北

家康伊賀越え逃走概略図(堺～草内)





4. 家康伊賀越え逃走路と時刻[堺～宇治田原(郷之口)]

日時	通過場所	距離 km	時刻	出来事	備考
6/2 5時	堺(妙国寺)	3.2		信長に御礼の為に京都へ	↑ 逃走ではない
(現7/1)	住吉大社・長居				
	平野・久宝寺・八尾	13.7	10時		堂々と通過
	高安(山のネキ) 恩智川(舟で北上)	10.6		恩智川・・・山のネキ(山根着川)	↓
	ふかうの池(深野)		13時	北条(JR野崎の東)	
14~16時	住吉平田神社	2.1	14時	変を知る、逃走作戦会議、昼食	コース関係者連絡手配(長谷川)
17時	星田妙見宮	6.5	17時	道案内人あり	伝:ひそみの藪(未明?)
	倉治	5.3	18時	倉治～穂谷の山道あり、案内人	星田～穂谷最短路(かいがけの道?)
20~ 6/3 2時	穂谷	6	20時	19時 先発隊:新八と出会う 休息、夕食、仮眠	伝:穂谷 白井家宿泊
	尊延寺(そえんじ)	5	3時		※槍越えの道よりも安全で新八がよく 知っている宇頭城への抜け道を選択 したと思われる
	宇頭城(うつぎ)		5時	地元新八が道案内	
	普賢寺・多々羅・興戸	6			新八:お礼の証文をもらう
6/3 7時	草内の渡し		7時	飯岡 小山太郎左衛門:舟を準備 対岸:山口城家臣ら出迎え	小山氏:九寸の七首もらう (小山家家譜図)
10~12時	郷之口	6.3	10~12 時	山口城で昼食、馬取換え	京都所司代報告書(1650年) 山口城新十左工門末次